

【評価について】
 目標指数より10ポイント以上上まわるとき.....◎
 目標指数より10ポイント未満上まわるとき.....○
 目標指数より10ポイント未満下まわるとき.....△
 目標指数より10ポイント以上下まわるとき.....×

項目	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	R3年度(%)						
					割合	A・Bの合計	評価				
1 教務	興味関心のある事柄を見つけ、探究活動を行う生徒を育成していく。 (取組指標)	興味関心のある分野について、幅広い知識や見識を得ようと、	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者	A	32.4	91.6	◎			
		A とても前向きに学ぼうとしていた。									
		B 前向きに学ぼうとしていた。									
	【目標指数】	C 取り組むことはなかった。	C	8.5	A+Bの合計が80%以上						
	興味関心のある事柄を見つけ、探究活動を行う生徒を育成していく。 (取組指標)	興味関心のある分野について、幅広い知識や見識を得ようと、				回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒	A	40.5	94.6	◎
		A 学習や読書などの活動を通して、大いに学ぼうとする意欲をもつことができた。									
		B 学習や読書などの活動を通して、ある程度学ぼうとする意欲をもつことができた。									
	【目標指数】	C 学習や読書などの活動を行い、学ぼうとする意欲をもつことができなかった。	C	5.4	A+Bの合計が80%以上						
	高志中学校の特色ある学習活動や探究活動により、学習意欲を高め、深い知識と幅広い技能を身につけることができた。 ・中高一貫教育ならではの学年を先取りした学習内容や習熟度別の学習活動 ・外国人教諭やスーパーティーチャーによる授業や大学教授などによる講演会 ・夏休みや冬休みに行うステップアップ講座やエンカレッジ (成果指標)	高志中学校の特色ある学習活動や探究活動により、学習意欲を高め、深い知識と幅広い技能を身につけることが				回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒	A	36.2	93.8	◎
		A 大いにできた。									
B ある程度できた。											
C あまりできなかった。											
D できなかった。											
【目標指数】	A+Bの合計が80%以上										
英語の授業や朝活動で身につけた知識や技能を用いて、英語で自分ことや身の回りのことを説明できる。 (成果指標)	私は、英語の授業や朝活動の学習によって、	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(1年生)	A	20.9	80.2	○				
	A 英語で自分のことや身の回りのことを大いに説明できた。										
	B 英語で自分のことや身の回りのことをある程度説明できた。										
	C 英語で自分のことや身の回りのことをあまり説明できなかった。										
	D 英語で自分のことや身の回りのことを全く説明できなかった。										
【目標指数】	A+Bの合計が80%以上										
英語の授業や朝活動で身につけた知識や技能を用いて、英語で身の回りや福井の事柄を説明できる。 (成果指標)	私は、英語の授業や朝活動の学習によって、	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(2年生)	A	17.2	80.4	○				
	A 英語で身の回りや福井の事柄を大いに説明できた。										
	B 英語で身の回りや福井の事柄をある程度説明できた。										
	C 英語で身の回りや福井の事柄をあまり説明できなかった。										
	D 英語で身の回りや福井の事柄を全く説明できなかった。										
【目標指数】	A+Bの合計が80%以上										
英語の授業や朝活動で身につけた知識や技能を用いて、英語で自分の考えを表現できる。 (成果指標)	私は、英語の授業や朝活動の学習によって、	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(3年生)	A	22.9	83.1	○				
	A 英語で自分の考えを大いに表現できた。										
	B 英語で自分の考えをある程度表現できた。										
	C 英語で自分の考えをあまり表現できなかった。										
	D 英語で自分の考えを全く表現できなかった。										
【目標指数】	A+Bの合計が80%以上										

令和3年度 高志中学校学校評価アンケート 評価シート

項目	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	R3年度(%)					
					割合	A・Bの合計		評価		
2 生徒支援	学校生活の中で見つかる課題について、生徒が主体的に取り組み、解決する場を与える。 (取組指標)	私は、生徒が主体的に取り組めるような場面を提供することが、 A 大いにできた。 B ある程度できた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員						
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 23.8 B 66.7 C 9.5 D 0			90.5	◎				
	高志中学校の一員として、学級活動や委員会、部活動や学校行事に積極的に参加し、自らを高めるとともに、集団をよい方向に導くことに取り組む。 (取組指標)	私は、学級活動や委員会、部活動や学校行事に積極的に参加し、クラスや学校をよくするように A 積極的に取り組んだ。 B 取り組んだ。 C あまり取り組めなかった。 D 全く取り組めなかった。			回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒				
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 36.7 B 50.8 C 11.3 D 1.2					87.5	○		
	子どもとの会話や学年通信などを通して、子どもが意欲的に学級活動や委員会、部活動や学校行事に関わっている様子がうかがえる。 (成果指標)	子どもは、学級活動や委員会、部活動や学校行事に A たいへん意欲的にかかわっていると思う。 B 意欲的にかかわっていると思う。 C あまり意欲的でなかったと思う。 D 全く意欲的でなかったと思う。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者						
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 30.5 B 61.5 C 6.1 D 1.9					92	◎		
	6年間の発達段階をふまえ、生徒に高校生の学校生活や行動の様子を紹介し、自覚ある行動ができるよう促す。 (取組指標)	私は、生徒が高校生と関わる場面を設定したり、高校生のよさを生徒に伝えることを A 積極的に行った。 B 行った。 C あまり行わなかった。 D 全く行わなかった。			回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員				
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 23.8 B 38.1 C 33.3 D 4.8					61.9	×		
	日常生活や学校行事などにおいて高校生と交流する中で、高校生の言動から自分の役に立つことを見つけ取り入れていく。 (取組指標)	私は、日常生活や学校行事などにおいて高校生と交流する中で、高校生の行動や考え方が自分の行動に A 大いに参考になった。 B 参考になった。 C あまり参考にならなかった。 D 全く参考にならなかった。	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒						
	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上	A 21 B 50.2 C 24.9 D 3.9					71.2	○		
高校生と同じ校舎で生活することで、高校生のよいところを学び、自らの成長につなげる。 (成果指標)	中学生と高校生が同じ校舎で生活し、学びあうことは、子どもの成長に、 A 大いに寄与していると思う。 B ある程度寄与していると思う。 C あまり寄与していないと思う。 D 全く寄与していないと思う。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。			保護者					
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 34.3 B 55.9 C 9.4 D 0.5					90.2	◎			

令和3年度 高志中学校学校評価アンケート 評価シート

項目	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	R3年度(%)			
					割合	A・Bの合計		評価
3 研究支援	生徒が「高志学」の取組や「ふるさと福井」に関する事柄について、家庭で話題にしている。 (取組指標)	「高志学」や「ふるさと福井」に関する事柄が、家庭で	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者				
		A よく話題になっていた。			A	23.2	79.1	○
	B 時々話題になっていた。	B			55.9			
	C あまり話題になっていない。	C			17.5			
	D 全く話題になっていない。	D	3.3					
	【目標指数】 A+Bの合計が70%以上							
	「高志学」の探究活動を通して、今まで自分が知らなかった「ふるさと福井」を発見する。 (取組指標)	私は、「高志学」を通して、今まで知らなかった「ふるさと福井」を	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(1学年)				
		A たくさん発見できた。			A	54.7	88.4	○
	B 発見できた。	B			33.7			
	C あまり発見できなかった。	C			11.6			
D 全く発見できなかった。	D	0						
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上								
「高志学」を通して、「ふるさと福井」の未来・可能性や自分自身の将来について考えることができる。 (成果指標)	「高志学」を通して、「ふるさと福井」の未来・可能性や自分自身の将来について	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(2学年)					
	A 大いに考えることができた。			A	26.1	84.1	○	
B 考えることができた。	B			58				
C あまり考えることができなかった。	C			14.8				
D 全く考えることができなかった。	D	1.1						
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上								
「高志学」を通して、「ふるさと福井」の課題を見つけ、その解決を図るための具体的な手立てを提案できる。 (成果目標)	「高志学」を通して、「ふるさと福井」の課題解決や自己の関わり方について	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒(3学年)					
	A 具体的な手立てを提案できた。			A	27.7	81.9	○	
B 具体的な手立てをある程度提案できた。	B			54.2				
C 具体的な手立てをあまり提案することができなかった。	C			15.7				
D 具体的な手立てを全く提案できなかった。	D	2.4						
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上								
「高志学」の授業をはじめ、教育活動全体で、「ふるさと教育」に関わる授業を実践する。 (取組指標)	私は、さまざまな教育活動で、「ふるさと教育」に関わる授業を	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員					
	A 大いに実践できた。			A	33.3	66.6	×	
B 実践できた。	B			33.3				
C あまり実践できなかった。	C			28.6				
D 全く実践できなかった。	D	4.8						
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上								

令和3年度 高志中学校学校評価アンケート 評価シート

項目	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	R3年度(%)			
					割合	A・Bの合計		評価
5 感染症対策	生徒に感染症予防の自覚を促し、感染症対策に関する指導等を行う。 (取組指標)	私は、生徒に感染症予防の自覚を持つことや感染症対策の指導等を	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、改善策を検討する。	教職員	A	57.1	100	◎
		A しっかり行うことができた。			B	42.9		
		B ある程度行うことができた。			C	0		
		C あまり行うことができなかった。			D	0		
	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	D 全く行うことができなかった。						
	新型コロナウイルス感染症への理解を深め、予防対策に取り組む。 (取組指標)	私は、感染症予防に対して、必要な行動に	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、改善策を検討する。	生徒	A	53.1	98	○
		A 積極的に取り組んだ。			B	44.9		
		B おおむね取り組んだ。			C	2		
		C あまり取り組まなかった。			D	0		
【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	D ほとんど取り組まなかった。							
学校は新型コロナウイルス感染症対策を適切に行いながら、教育活動に取り組んでいる。 (成果指標)	学校は必要な感染症対策を行い、教育活動に	回答者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、改善策を検討する。	保護者	A	59.2	99.6	○	
	A よく取り組んでいる。			B	40.4			
	B おおむね取り組んでいる。			C	0.5			
	C あまり取り組んでいない。			D	0			
【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	D ほとんど取り組んでいない。							

項目	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	回答者	R3年度(%)			
					割合	A・Bの合計		評価
6 働き方改革	超過勤務時間が多くならないように業務の見直しを行っている。 (取組指標)	超過勤務時間が多くならないように業務の見直しを	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員	A	45	90	◎
		A 積極的に行っている。			B	45		
		B おおむね行っている。			C	10		
		C あまり行っていない。			D	0		
	【目標指数】 A+Bの合計が70%	D まったく行っていない。						
	積極的に休暇を取得し、ワーク&ライフバランスをとるように心がけている。 (取組指標)	夏季休暇・年次休暇等を	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。	教職員	A	25	60	×
		A 大いに取得した。(夏季5日、年休12日程度以上)			B	35		
		B ある程度取得した。(夏季3日、年休10日程度以上)			C	40		
		C あまり取得しなかった。			D	0		
【目標指数】 A+Bの合計が70%	D ほとんど取得しなかった。							
教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取組の必要性を理解できる。 (満足度指標)	教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取組の必要性を	回答者のAまたはBと判断した割合が70%未満の場合は、取組体制等を再検討する。	保護者	A	64.3	99.5	◎	
	A 非常に理解できる。			B	35.2			
	B おおむね理解できる。			C	0.5			
	C あまり理解できない。			D	0			
【目標指数】 A+Bの合計が70%	D まったく理解できない。							